



Department of Society and Regional Culture

歴史学
history

考古・
先史学
archeology

社会学
sociology

沖縄国際大学 総合文化学部

社会文化学科

学 科 紹 介

2025

平和学
peace studies

人類学
anthropology

民俗学
folklore



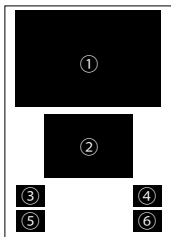
「沖縄」の歴史・文化・社会を総合的に学び、
沖縄・日本・アジアの未来を拓く



目次

ble of contents

学科長メッセージ	1
学科の特徴とポリシー	2
社会文化学科での学び	3
注目の科目	4
フィールドワーク	5
さまざまな正課外活動	6
徹底した少人数教育・演習	7
専任教員紹介	7
在学生紹介	12
卒業後の進路・就職先	13
OB&OGからのメッセージ	14



表紙写真

- ①名護市でのミニフィールドワークの様子
- ②今帰仁城跡遺跡見学会
- ③沖縄戦における米軍の対空砲火
- ④沖縄の伝統行事那覇ハーリー
- ⑤ヘリ墜落事故で被害を受けた本学本館
- ⑥首里城正殿

学科長メッセージ

Message

あなたの知りたい「沖縄」を みつけることにできる場へようこそ！

みなさんは沖縄のことをどれだけわかっているでしょうか。

琉球王国時代の沖縄のひとびとはどのような生活をおくり、周辺の国々とどのような関係を結んでいたのでしょうか？

現在にも継承される伝統文化は、どのような歴史や社会的背景のもとに築かれたのでしょうか？

戦前の沖縄のひとびとの暮らしや戦後の米軍統治は、現代の沖縄の社会や文化にどんな影響を与えているのでしょうか？

沖縄の歴史や伝統文化は県外や海外ではどのように受け止められているのでしょうか？

歴史・文化・社会を見つめなおすことは、沖縄の未来を展望することにつながります。

社会文化学科では、考古学、歴史学、民俗学、文化人類学、社会学、平和学など、さまざまな視角を用意して、みなさんとともに沖縄を深く理解する手助けをします。



学科長 市川 智生

現代の沖縄・日本に必要な人材とは？

- ・フィールド(現場)を知っている人材
- ・十分なコミュニケーション能力をもつ人材
- ・歴史を踏まえて現代社会を分析できる人材
- ・内外に発信(発進)する語学力のある人材
- ・沖縄・日本を理解し、アジアを知る人材
- ・問題に気づき、解決へ向けて取り組める人材
- ・グローバルな視野から現場を理解できる人材

社会文化学科は、沖縄を総合的に考え、アジア・世界のなかの 沖縄・日本を担う人材を育成します!!

沖縄の社会・文化を知り尽くしたスペシャリスト

現場を重視するフィールドワーク

人類社会・文化に対する幅広い理解

沖縄からアジア・世界へ広げる国際的視野

実践的英語・異文化理解能力

4年一貫ゼミによる少人数教育

問題発見と、解決策の検討・実践

学科の魅力と特徴

“沖縄”を学際的に学び・考え・行動する学科です。

沖縄をとりまくアジア・世界の文化や社会、歴史と今を知り、比較文化という

観点を踏まえながら“沖縄”を学んでいきます。

学生自らフィールド(現場)に出て、沖縄を生きる・生きた“人間”とつながることで、

“沖縄”の歴史・文化・社会を理解し、未来を切り拓く人材を育成します。

アドミッション・ポリシー Admission Policy

求める入学者像

社会文化学科は、「沖縄」と「人間」について学ぶ意欲と関心を持ち、
自らの個性と人間力の向上に努める人材を求めます。

- ① 沖縄を理解するための知的的好奇心と知的探求心をもつ人物。
- ② 沖縄をとりまく世界の社会や文化の動きに深い興味と関心をもつ人物。
- ③ 沖縄をとりまく世界の問題と向き合うための基礎学力を有する人物。
- ④ 自らの問題意識のもと、フィールド(現場)に出て積極的に情報を集め考え判断し、
主体的に行動することができる人物。
- ⑤ 国際交流・地域・ボランティア・文化・スポーツなど学内外の活動に主体性と協調性を
もって取り組める人物。

カリキュラム・ポリシー Curriculum Policy

提供カリキュラムの構成

- ・基礎的知識を習得する「導入科目」
- ・専門分野の基礎を理解する「基礎科目」
- ・分野毎の諸テーマを掘り下げる「発展科目」
- ・語学力&比較文化のための「異文化理解科目」
- ・フィールドワークと地域理解の「実習科目」
- ・卒業論文作成を目的とする「演習科目」
- ・様々な他者との交流のための「正課外教育」

ディプロマ・ポリシー Diploma Policy

本学科卒業者に求められるもの

- ・比較文化的観点への理解
- ・フィールドワーク能力
- ・沖縄および周辺地域の研究能力
- ・地域理解能力
- ・社会的コミュニケーション能力
- ・問題解決へ取り組む能力

あなたが
学ぶべき
分野は？

- 社会・平和領域**
- ☐ 基地問題に関心がある
 - ☐ 平和・戦争問題を考えたい
 - ☐ 女性・家族・民族問題を学ぶ
 - ☐ 教育・労働・メディアを考える
 - ☐ より良い社会・世界を構想する

- 民俗・人類学領域**
- ☐ 沖縄の民俗文化に興味がある
 - ☐ 沖縄の文化をアピールしたい
 - ☐ アジアとの関係に興味がある
 - ☐ アジアと沖縄を比較したい
 - ☐ 世界の中の沖縄を考えたい

- 歴史学領域**
- ☐ 琉球王国に興味がある
 - ☐ 琉球・沖縄史全般を学びたい
 - ☐ 沖縄の近現代史に興味がある
 - ☐ 歴史から現代を考えたい
 - ☐ 歴史学の考え方を学びたい

- 考古・先史学領域**
- ☐ 考古学にロマンを感じる
 - ☐ 先史時代に関心がある
 - ☐ 遺跡、発掘作業に興味がある
 - ☐ 遺物の保存方法を知りたい
 - ☐ 資料館・博物館が好き

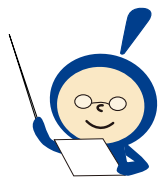


1年生の履修パターン



	月	火	水	木	金
1限		英語Ⅰ		人文地理学概論	英語Ⅰ
2限					沖縄社会入門
3限	中国語Ⅰ	沖縄文化入門	フレッシュマンセミナー	中国語Ⅰ	
4限	情報処理基礎		琉球・沖縄史入門		
5限		教職研究Ⅰ			

琉球・沖縄史入門



皆さんは「琉球・沖縄史」についてどれだけ知っているでしょうか。日本史や世界史は高校までの授業で習ってきたけれど、沖縄の歴史についてはほとんど知らないというのが実情ではないでしょうか。この講義は、考古学および歴史学の4名の教員がオムニバス形式で担当します。沖縄の先史古代から琉球王国の成立、薩摩の琉球侵攻によって始まる近世、さらに琉球処分・沖縄戦・米軍統治・復帰後に至る近現代までの枠組みの中から、様々なトピックを取り上げて紹介します。琉球・沖縄の独自性や特質性を理解するとともに、その見方、考え方を学んでもらう内容で、沖縄の歴史文化の広がりや深さの一端を知ることのできる授業だと言えます。

沖縄文化入門



皆さんが「沖縄文化」という言葉でイメージするのは、どんなものでしょうか？

エイサー？ チャンプルー？ シーサー？あるいは赤瓦の家並みや亀甲墓、それともハーリーや海人（うみんちゅ）たちでしょうか？ この講義はそれら全てを視野に入れ、大学で沖縄文化を専門的な視野から考えていくための下地作りを目指しています。ポイントはここで言う「文化」が、主として「庶民の文化」であることです。そしてそれは、この島々の人々が「国」を作り、中国、日本、朝鮮、東南アジア、米国と関係を築くなかで、生み出されてきたものです。沖縄に暮らしてきた人々が作り出してきた生活文化と一緒に考えていきましょう。

沖縄社会入門



皆さんの日々の生活の舞台である沖縄社会を「知る」ことは、社会文化学科における学びの第一歩です

ただし「知る」ということは、単に情報を得るという意味ではありません。これまで見落としていたこと、興味を持たずに素通りしていたことに気づくためには、社会を見る視点を「知る」ことがとても大切です。どのようにしてその社会がつくられてきたのか、それがどのような仕組みによって成り立っているのか、知的好奇心を持って考えてほしいと思います。この講義では、そのときに役立つであろう視点を、現在の沖縄社会にまつわるいくつかのトピックとともに紹介します。

社会調査法 I・II



社会・文化・歴史を知り、考え、伝えるための「方法」を学びます

社会調査とは、社会を理解するために人間行動に関するデータ（情報）を収集し、データを分析して記述・説明、その結果を公表する一連の過程です。社会調査の目的・意義と歴史、調査倫理、調査の種類と実例、量的・質的調査の紹介をへて、調査の企画・設計、仮説構成、調査票・インタビューガイドの作成、対象者の選定、サンプリング法、資料・データの収集と分析、報告書作成まで、社会調査の全過程を学習します。新聞社や放送局、行政や企業、教育や NGO / NPO の調査部門で必要とされる社会調査士資格（社会調査の基礎能力を有する専門家）の認定科目です。

外国語資料 講読演習 I・II



この演習は、2 年次を対象とした必修科目です

社会文化学科は「沖縄を徹底的に学ぶ」ことをカリキュラムの根本に据えています。世界的な視野で「沖縄をより深く学ぶ」ためには、日本語の文献はもとより、外国語文献の読解能力も必要になってきます。演習では、学生が所属する領域演習に応じて、それぞれの分野に関連した外国語文献（主に英語）の専門用語を学び、最終的には外国語専門資料を正確に読みこなす能力の獲得を目指します。グローバル化が進む 21 世紀において、国内外に「沖縄」を発信していくためにも、会話能力はもちろんのこと、外国語文献読解力もまた必須スキルなのです。

現場から「沖縄」を探究する フィールドワーク

社会文化学科では3年次になると、7つの専門ゼミ(考古・先史学、歴史学〔前近代〕、歴史学〔近現代〕、民俗学、人類学、社会学、平和学)から、各自の興味関心にもとづいて1つのゼミを選び、より専門的な研究活動を行っています。

各ゼミでは、毎年、テーマを決めてフィールドワーク(現地調査)を行い、それぞれの専門分野に基づいて沖縄への理解を深めます。フィールド(現場)を重視する学科、社会文化学科の最も重要な学びのプロセスです。

社会学ゼミ

「世界のウチナーンチュの日」記念イベントに参加し、フィールドワークを行いました。(2019年10月29日、沖縄市にて)



平和学ゼミ

首里城地下にある第32軍司令部壕の戦跡フィールドワークを行いました。沖縄戦後史や米軍基地についても学べるゼミです。



歴史学ゼミ (前近代)

3年次の「実習」では、沖縄県公文書館で稽古案文集(同館岸秋正文庫蔵)の閲覧と調査を行い、くずし字の判読と候文の読み下しに取り組みました。



人類学ゼミ

通常「まちまーい」などと呼ばれる地域歴史文化ガイドの内容および各団体の組織運営を調査しました。地元の人々が地域を知ることの重要性を再確認しました。



民俗学ゼミ

金武町並里を調査地とし、ゼミ生の個別テーマに加えて十五夜儀礼を観察しました。現地で実施した調査報告会では、地域の方々との交流を深めることができました。



歴史学ゼミ (近現代)

今年度は、宜野湾市史と連携して戦後の宜野湾市の復興について資料調査するとともに、宜野湾市内各地をめぐる予定です。



海外研修 (@台湾)

人類学ゼミでは、台北の史跡・文化施設・大学などを訪問する海外研修を実施しています。写真は、沖縄との比較を念頭に訪問した台北市孔子廟の大成殿です。



考古・先史学ゼミ

琉球国時代の八社のひとつ、普天満宮のなかにある洞穴遺跡の発掘調査を実施しています。約4000年前の土器や石器だけでなく、更新世に絶滅したシカ類も出土しました。



社会文化学科 接続教育プログラム

学科での学びや学生生活を不安なく始められるように、社会文化学科は多様で丁寧な支援を実施します。

これまで社会文化学科では、初年次教育として、東村の本学セミナーハウスでの1泊2日のMT (Membership Training) を実施してきました。MT とは、入学したての1年生を対象とした宿泊研修です。その主な目的は、1年生同士が交流を深めること、学科教員はもとよりリーダー役の2年生との繋がりを築き、充実した学生生活の第一歩を踏み出すことです。社会文化学科では、2002年に沖縄国際大学で初となるMTを企画し、その後も毎年春にMTを開催してきました。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、MTが実施できなくなりました。そこで社会文化学科では、1年生が学科での学びに早く慣れ、同学年生、上級生、教員などとの人間的な関係を早めに構築できるようにすることを目指した新たなプログラムを検討し、2021年春より実施することになりました。

具体的には、入学前オリエンテーションにおいて、「with コロナ」時代の大学での学びについて理解を深めるとともに、感染予防策を徹底した上で、学内フィールドワークを実施しました。学内フィールドワークでは、本学科独自のサークルである「スマイライフ」の学生が主導し、2004年の米軍機墜落現場の跡地「ポケットパーク」から、普天間基地が見える5号館の階段を巡り、身近な基地問題について議論しました。また、2021年度からは、専門ゼミ担当の教員が中心となり、上級生も交えた複数のミニ・フィールドワークを実施しました。2024年度は名護青少年の家に宿泊して、名護市各地でフィールドワークを実施しました。



SmiLife

沖縄理解を深め、
修学旅行生などへの
平和ガイドを行う

スマイライフは社会文化学科の学生で構成されるサークルです。講義で学んだことを生かし、修学旅行生などを対象に、沖縄についてのガイドを行っています。



徹底した少人数教育・演習

演習(ゼミ)とは、少人数による実習やディスカッションによる授業の形式です。他のゼミ生の意見に耳を傾けながら議論を深め、自分の考えを練り上げていく力を鍛えていきます。

社会文化学科では入学から卒業まで全ての学年でゼミ教育を徹底し、学生の一人一人を指導・支援しています。

学問の基礎を広く浅く学ぶことから始め、段階を追って自分で選んだ専門領域を深く狭く学んでいくカリキュラム構成をとっています。これらの経験の積み重ねから、卒業論文の執筆という大きなゴールへとつながっていきます。

3年生に進級すると、それぞれのゼミで実習を行います。沖縄県内外の地域社会や公文書館などに赴き、現場からの学びに挑戦します。

4年生 演習Ⅱ (4年ゼミ)

卒業論文は、「沖縄を総合的に学ぶ」社会文化学科での4年間の学びの集大成です。各自がテーマを設定し、専門分野における知識と方法論に基づき、卒業論文を仕上げ、その内容を社会に発信します。

実習

フィールドワーク(実習)を通じて、専門分野における調査・研究能力を向上させ、地域理解能力を育成します。

3年生 演習Ⅰ (3年ゼミ)

考古・先史学、歴史学(前近代)、歴史学(近現代)、民俗学、人類学、社会学、平和学の各専門ゼミに分かれ、領域演習で培った知識と方法を活用し、専門分野の個別テーマについて深く学んでいきます。

2年生 領域演習 (領域ゼミ)

考古・先史学、歴史学、民俗・人類学、社会・平和の4つの専門領域に分かれ、専門分野における学問体系の基本、調査・研究能力の基礎を習得します。

1年生 フレッシュマンセミナー(FS)

約20人ずつの小クラス(ゼミ/セミナー)に分かれて、大学生として、読み、書き、調べ、発表し、議論する能力を養成します。履修の仕方や大学生活についても、ゼミ担当の先生がアドバイスします。

専任教員紹介

社会文化学科には11名の専任教員が所属し、それぞれの専門分野についての講義・ゼミを担当しています

考古・先史学



新里 貴之

Takayuki Shinzato

【自己紹介】

南九州から南島の考古学が専門です。主に、文字のない時代の土器、墓、交易、社会組織などを研究しています。沖縄を含む南島は小さな島々ですが、日本のなかでも一種独特な興味深い歴史を歩んできた地域です。その南島を、発掘調査という手法を用いて、歴史の断片を自らの手で掘り起こし、それらを科学的に系統立てて整理します。パズルのピースを埋めるように、過去を復元できた時の喜びは何にも代えがたいものです。

【担当科目】

演習Ⅱ、演習Ⅰ、領域演習(半期)、考古学特講Ⅰ・Ⅱ、南島先史学Ⅰ・Ⅱ、アジア考古学(半期)、考古学概論(半期)、沖縄の考古学(半期)、南島先史文化特論Ⅰ・Ⅱ(大学院)

【ゼミ紹介】

考古・先史学ゼミでは、発掘調査の技術と資料整理作業、報告書作成、論文作成、研究成果の発表方法を学びます。学年ごとに段階的に専門性を身につけ、最終的に専門家になれるよう育成しています。

発掘実習はこのゼミの目玉であり、モノや痕跡という物証から、過去の文化や行動様式、技術などを復元する方法を学びます。地道な協働作業を通して、上級生から様々なスキルを教わりながら、自ら学ぶのです。野外作業を厭わない学生、お待ちしております！

社会文化学科のカリキュラムは、少人数によるゼミ教育を徹底し、入学初年度から実習、学びの総括となる卒業論文の執筆まで、専門の教員が細やかに支援し続けます。

歴史学〔前近代史〕



深澤 秋人
Akito Fukazawa

【自己紹介】

専門分野は、近世琉球の対外関係史、尚家文書の史料論です。ここでの対外関係史とは、鹿児島や福州（福建省）でのヒト・モノ・情報など外交や貿易の最前線の様相を明らかにすること、日本や中国との関係が琉球の国家や社会にとってどのような意味を持っていたのか検討すること、そして、最前線となった場がその地域でどのように位置づけられるのか現地を訪れて考えることだと思います。

尚家文書（那覇市歴史博物館蔵）が活用できるようになりました。この10年余り、対外関係史に関わる文書をひたすら読み、史料論の構築に取り組んでいます。

【担当科目】

古文書講読Ⅰ・Ⅱ、沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ、領域演習、演習Ⅰ、演習Ⅱ、琉中交流史、琉球・沖縄史入門、ほか

【ゼミ紹介】

私は歴史学（前近代史）ゼミを担当しています。琉球国が成立していた時期（成立前も）の国家や社会の状況を文字によって記された文献史料に基づいて検討します。2年次では、身近な地域の歴史を考える意味を考えます。3年次では、先行研究と関連史料を丹念に読み込みます。そして、4年次では、先行研究と史料を踏まえ、個々が「ゆずれないテーマ」を設定して卒業論文にまとめあげることを目指します。諦めない学生を歓迎します。

歴史学〔近現代史〕



藤波 潔
Kiyoshi Fujinami

【自己紹介】

私自身の専門は、19世紀のイギリスがアジアの諸国家や諸地域とどのような関係を、なぜ構築したのかを研究しています。社会文化学科では、明治以降の沖縄の歴史を対象とするゼミを担当しています。また、教職課程の担当もしており、主として中学校社会科教員の養成を担当する教職ゼミや外国史の授業を担当しています。

社会文化学科の学生だけで構成しているサークル「SmiLife（スマイライフ）」や、吹奏楽部、ハンドボール部の顧問も務めています。SmiLifeは、修学旅行生の平和学習を支援する活動を主としていることから、私自身も県外の中学生、高校生を対象とした講演を多数おこなっています。

歴史学は「おぼえる」「暗記する」学びではありません。根拠となる歴史資料に基づいて「考える」ことが学びの基本です。大学で「考える歴史」を一緒に学びましょう。

【担当科目】

演習Ⅰ、演習Ⅱ、領域演習、外国史Ⅰ・Ⅱ、社会科・地理歴史科教育法・同演習、社会科・公民科教育法演習

【ゼミ紹介】

2年のゼミ「領域演習」では、歴史学で卒業論文を書くための基本的な作業を経験させます。具体的には、①過去の事実を知る方法、②文献や論文を探す方法、③歴史資料を探す方法、④歴史資料を読む方法を、実技を交えながら経験してもらいます。

3年のゼミ「演習Ⅰ」では、明治以降の沖縄の歴史に関する2冊の本をゼミ生で分担し、報告してもらいます。夏休みの「実習」では、戦後の歴史資料を調査し、リストを作って、内容をデータベースにする作業をおこないます。後期には、ゼミ生各自の卒論テーマに沿った研究論文を読み、その内容に関する報告をしてもらいます。

4年のゼミ「演習Ⅱ」では、前期に卒業論文で使用する歴史資料の内容を、後期は卒業論文の内容を報告してもらいます。また、各学年のゼミとも、必要に応じて県内の博物館、資料館等へ出向いたり、関係する史跡を訪れたりしています。

民俗学



阿利 よし乃
Yoshino Ari

【自己紹介】

私は「民俗学」を専門としています。民俗学とは、人間の生き方や暮らしを歴史の変化のなかで捉える学問です。歴史といっても、文字で書き残されたものを対象とするのではなく、田んぼや畑での農作業や夏に行われる綱引きなどの年中行事も研究の対象です。人びとの暮らしの日常すべてが民俗学の研究テーマになるのです。フィールドワークで地域に分け入り、実際に人びとと関わり合いながら考えることができるのが民俗学の魅力です。

【担当科目】

フレッシュマンセミナー、沖縄文化入門、南島民俗学史Ⅰ、南島民俗学Ⅱ、民俗学概論、領域演習(民俗学・人類学領域)、演習Ⅰ・Ⅱ(民俗学)

【ゼミ紹介】

民俗学ゼミは3年次の演習Ⅰからスタートします。3年次では沖縄の一村を調査地に設定し、ゼミ生の興味を基にフィールドワークを行います。そしてその成果を報告書にまとめます。4年次では3年次での経験を基に個人で卒業論文作成に取り組みます。これまでに、自身の家の祖先祭祀や、沖縄出身者と県外出身者の婚姻による文化のギャップの考察、南風原の緋やアニメの聖地巡礼など幅広いテーマに取り組んできました。

人類学



石垣 直
Naoki Ishigaki

【自己紹介】

私は「文化人類学」や「アジア文化」関連の諸講義やゼミを担当しています。石垣島出身の私は、県外・海外での学びを通じて「文化人類学」という学問に出会いました。この学問分野は、人類社会・文化の多様性と共通性を探究する学問ですが、郷土の文化を世界的な視座から検討する際にも大いに役立ちます。私たちが生きる21世紀、グローバル化はさらに加速していきます。学生の皆さんには、ぜひ、世界・アジア的な視野で沖縄を考える姿勢を身に付けてもらえればと思います。

【担当科目】

沖縄文化入門、文化人類学概論、文化人類学理論、アジア文化概論、アジア社会文化論Ⅰ、琉球アジア文化論、演習Ⅰ・Ⅱ、実習、ほか

【ゼミ紹介】

2年生の領域演習で民俗学・人類学双方の調査・研究の基礎を学びます。本格的な人類学ゼミが編成されるのは3年生の演習Ⅰからで、この学年では実習に取り組み、実習報告書を作成します。4年生の演習Ⅱでは、ゼミ生が各々の関心に基づいた卒業論文を執筆します。人類学ゼミでは、県内はもとより海外でも研修や調査実習を実施してきました。世界・アジア的な視座で沖縄を考えたいという熱意をもつ学生との出会いを楽しみにしています。

社会学



崎濱 佳代
Kayo Sakihama

【自己紹介】

社会学の理論や研究手法の授業を主に担当しています。「社会学」。高校生にはなじみのない科目ですね。私たちが生きる社会には、さまざまな組織や規範、仕組みが存在します。家族・地域・学校・職場・世間・国家・国際社会…それぞれに組織があり、規範があり、役割があり、それらが組み合わさって、1人の人間の生活を応援したり、時には悩ませたりする仕組みを作り出します。「社会学」は、ありとあらゆる社会現象を研究対象とします。どんな組織や仕組みが存在するのか(社会構造)、それらが時代の流れと人々の意識や行動によってどのように変わっていくのか(社会変容)。一番大事なのは、社会の仕組みと個人の生活がどんな影響を及ぼしているのかということ。皆さん自身と社会の関係を見つめなおすヒントを提供したいと思っています。

【担当科目】

沖縄社会入門、社会学概論、演習Ⅰ・Ⅱ、ジェンダー論、国際社会学、ほか

【ゼミ紹介】

私の担当する社会学ゼミの特徴は、多様な研究テーマをもつ学生たちが集うところです。貧困や、教育、ジェンダー、セクシュアリティ、移民、メディア、文化(サブカルチャー)など、それぞれの興味関心を追究し、その中で自分の抱えるモヤモヤを言語化して論じることや、フィールドでの出会いを経験して各々の成長のステップを上げてゆきます。

追究するテーマは違えど、ゼミの仲間は無関係ではありません。共同作業や卒論進捗報告でのディスカッションを通じて、お互いの経験や視点を分かち合い、学びあう場を提供するのがゼミの役割です。

平和学



秋山 道宏
Michihiro Akiyama

【自己紹介】

平和学や社会学関連の授業と平和学ゼミ(演習Ⅰ・Ⅱ)を担当しています。研究活動では、戦後沖縄の地域や住民の視点から、沖縄戦体験がどのように継承されてきたのか、人々は軍事基地(米軍や自衛隊)とどう向き合ってきたのか、といったテーマを探究しています。また、地元である南風原町では、平和ガイドの活動も行なっています。平和や戦争が鋭く問われる場所である沖縄で、好奇心をもち、動き、考え続ける学生を歓迎します。

【担当科目】

沖縄社会入門、平和学概論、社会調査法Ⅰ・Ⅱ、社会学理論、平和運動史、領域演習、演習Ⅰ・Ⅱほか

【ゼミ紹介】

現在、沖縄は平和でしょうか? 平和とは、どのような状態でしょうか。平和学ゼミでは、この素朴ですが、根本的な「問い」について、沖縄戦や身近に存在する軍事基地の歴史、沖縄・日本・東アジアの戦後史などを学び、理解を深めることを通して考えていきます。平和を考えるには、座学だけでなくフィールド(現場)に出ることも大切ですので、沖縄戦や戦後を生き抜いてきた人々の経験について聞き取り調査も行なっています。

歴史学

日本近現代史・医療社会史
教職科目



市川 智生
Tomoo Ichikawa

【自己紹介】

みなさんのご先祖はどんな状態を健康だと考え、どんな病気にかかり、何歳で亡くなったのでしょうか。わたしは、文字で残された情報や聞き取りを材料に、健康、医療、病気を通して日本の歴史を研究しています。このテーマは、かつては長寿県と言われ、マラリアやフィリリアなど多くの病気に苦しんできた沖縄にも縁が深いものです。講義では、実際の史料をみて皆さんに考えてもらう日本史を実践しています。自分が暮らす地域、国の歴史について、一緒に理解を深めましょう。

【担当科目】

フレッシュマン・セミナー、琉球・沖縄史入門、日本史概論Ⅰ・Ⅱ、日本史Ⅰ・Ⅱ、日本の歴史Ⅰ・Ⅱ、人間文化課題研究

考古・先史学

博物館学芸員課程



宮城 弘樹
Hiroki Miyagi

【自己紹介】

考古学や博物館の授業を主に担当しています。地下に埋もれた歴史を発掘するとともに、多くの博物館の展示では、歴史資料の一番はじめに考古資料が並んでいます。数万年前にやってきた私たちの祖先はいったいどんな人たちだったのか？ 数千年前の沖縄にどんな暮らしがあったのか？ 琉球のグスクを発掘するとどんな物が出土するのか？ 沖縄の遺跡は謎が多く、掘れば掘るほど新しい発見がいっぱいです。単なる知識だけではなく、幅広く、奥深い経験と科学的な「モノ」の見方の習得を目指し、考古資料にたくさん触れながら学びます。好奇心あふれ、情熱ある学生を歓迎します。

【担当科目】

フレッシュマンセミナー、琉球・沖縄史入門、南島考古学Ⅰ・Ⅱ、博物館資料論、生涯学習概論、ほか

人類学

環境学



比嘉 理麻
Rima Higa

【自己紹介】

授業の面では、文化人類学や環境に関わる授業を担当しています。また研究の面では、環境保護と米軍基地反対運動の研究に携わっています。学問の世界では、人間が自身を世界の中心だと思い込んで自然を支配したために環境破壊に歯止めがきかなくなったという反省から、「人間中心主義批判」という動きがあります。私もそうした立場から沖縄の環境保護活動の研究を行うとともに、大規模環境破壊とも言える辺野古基地建設に反対する運動について研究しています。

【担当科目】

フレッシュマンセミナー、外国語資料講読演習Ⅰ・Ⅱ、文化人類学Ⅰ・Ⅱ、環境科学Ⅰ・Ⅱ
ほか

社会学

沖縄移民研究・スペイン語



月野 楓子
Fuuko Tukino

【自己紹介】

沖縄から海外へ渡った人々の研究をしています。移民は過去の出来事と思われがちですが、世界には沖縄にルーツを持つたくさんの人がいて現在も沖縄への関心を持ち続けています。私自身は、そうした故郷から離れて暮らす人々の歴史や社会、文化について知ることを通して、何かを・誰かを想うということについて考えています。

【担当科目】

フレッシュマンセミナー、スペイン語Ⅰ～Ⅳ、外国語研究Ⅰ・Ⅱ、国際理解課題研究Ⅰ・Ⅱ

キャリア教育・就職支援

本学科ではキャリア教育や就職支援にも力を入れています。「インターンシップ」では、希望する学生が在学中に、企業の実務の場でインターン経験を積むことができます。また、インターン終了後は「インターンシップ報告会」を開催しております。

他にも、学科独自のプログラムとして、就職活動に励んできた先輩から、就職活動経験を聴く「就職内定者と語る会」を開催しています。就職内定を受けた4年次がその就職活動の体験を3年生向けに語る会を通して、3年生が自らのキャリアについて考える機会とするために、4年次は自分が苦労した分を少しでも後輩に伝えることで後輩の就職活動の一助になり、4年生自身が社会に飛び立つ前のトレーニングを目的とした座談会です。



インターンシップ報告会の様子



就職内定者座談会の様子

卒業後の進路・就職先

社会文化学科の卒業生は、沖縄県内外の様々な業界で活躍しています。教員や学芸員等の専門職だけでなく、大学で培った問題解決能力とコミュニケーション能力は一般企業の現場でも活かされています。

また、社会文化学科では所定の科目を履修することで在学中に様々な資格を取得することができます。

社会文化学科修了者の主な進路選択

教員(高校・中学/地歴・公民・社会)
地方公務員、国家公務員、博物館学芸員、図書館司書
マスコミ、金融・保険業、印刷・出版業、観光業、ホテル・サービス業
国際機関職員、NPO・NGO職員、大学院進学、留学

社会文化学科で取得可能な資格

高等学校教諭一種免許(地理歴史/公民)
中学校教諭一種免許(社会)
博物館学芸員資格
図書館司書資格
社会調査士



2022年度卒業生の主な就職先

[公務員・教員] 那覇地方法務局 沖縄総合事務局 沖縄県国民健康保険団体連合会 沖縄市役所

[卸・小売業] ABC マート オンデーズ 沖縄東邦 イオン琉球 コジマ 野嵩商会 沖縄トヨタ自動車
サンエー 琉薬 沖縄伊藤園 ネクスステージ 歩幸商会 エンドレス 沖縄メディコ

[生活関連サービス業、娯楽業] 沖縄観光コンベンションビューロー LAVAI International アワーズ クリア

[複合] JA おきなわ 琉球新報開発

[情報通信業] IVS 光貴

[金融業、保険業] 琉球銀行

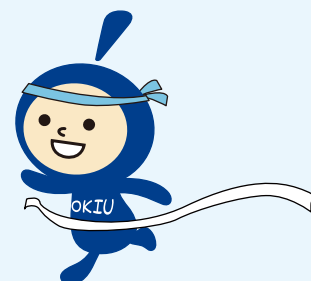
[建設業] 沖縄中央防災システム

[不動産業、物品賃貸業] 中部興産

[専門] 有限会社ティガネー

[医療、福祉] 沖縄県社会福祉協議会

[サービス業] マーキュリー 夢真





沖縄国際大学の詳細および社会文化学科については、
大学発行の『大学案内』などもあわせてご覧ください。



沖縄国際大学公式ウェブサイト
<http://www.okiu.ac.jp>



沖縄国際大学
社会文化学科Facebook (おきこく・しゃぶん)
<https://www.facebook.com/okiushabun/>



社会文化学科ウェブサイト
<https://www.okiu.ac.jp/gakubu/sogobunka/syakai/shabun>



SmiLife
学内サークルスマイライフ
https://x.com/smilife_okiu?mx=2

製作・発行 沖縄国際大学 総合文化学部 社会文化学科

住 所 〒901-2701 沖縄県宜野湾市宜野湾 2 - 6 - 1 沖縄国際大学
電 話 098 (892) 1111 (代表)
発 行 日 2024年5月31日
印刷・製本 沖縄高速印刷株式会社